



愛知陸協広報

第21号

23年3月29日発行

愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

e-mail ark@marble.ocn.ne.jp

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

駅伝王国愛知の面目躍如

悲願の初優勝 —トヨタ自動車—
全日本実業団駅伝

元日恒例のこの駅伝で、トヨタ自動車は、4時間51分56秒。富士通・日清食品グループを制しての悲願の初優勝を果たした。



優勝チーム選手全員



ゴールテープを切る熊本剛選手

連続入賞6位
都道府県女子駅伝



6位に入賞し、ガッツポーズで喜ぶ愛知代表チーム＝京都市体育館で
写真提供 中日新聞社



第7中継所で松井恵里奈選手(右)にたすきを渡し、ホッとした表情を見せる田鍋舞選手
＝京都市内で 写真提供 中日新聞社

県勢6位となる入賞を果たした愛知。各区間の選手が、しっかり役割を果たしての結果であった。タイムは、2時間19分48秒。



協会について思うこととマラソンフェスティバル（仮称）

副会長 國分 一郎

私が常務理事として愛知陸協に顔を出した頃には、高橋公一理事長は民間企業の専務、翠総務部長は名古屋市の部長、中西施設用器具部長・検定員は民間企業の部長、森田競技部長は自営業、杉江審判部長が高校教諭でした（当時は部長と称していた）。

現在はほとんどの委員長が高校又は中学の教諭です。悪いとは言いませんが、よりよい協会の運営のためには、豊かな経験、広い視野を持った人を登用していくことが必要だろうと思っています。その点で今回民間企業の清水康朗氏が財務委員長につかれたことは、よかったと思います。千葉陸協の理事長だった羽計氏（故人）が日本陸連の理事時代「千葉陸協は歴代理事長が教諭上りで協会の資金をつくるができなかった。愛知陸協は高橋公一氏のような民間企業の方が理事長であったためにそれができた。その差は大きい」と話していたことを思い出しました。

教諭の方で教育委員会事務局とか県市の機関に出向されて、豊かな経験を積まれても、再び陸協の業務に復帰してくだらない方がみえます。出向し豊かな経験を積まれた方は、ぜひその経験を愛知陸協で生かしてほしいと思います。58高校総体の事務局係長を経験された橋本卓氏や愛知県体育協会事務局主査を経験された栢田吉生氏が早く他界されたことも、愛知陸協にとっては大きな損失だったと思います。

私は14年間の理事長時代に年誌資料・広報委員会、女性委員会を立ち上げました。特に初代広報委員長を大学教授だった西垣完彦氏に、その後教育委員会業務の経験のある外山修氏に引き継いでいただき、立派な広報紙の発刊が続き感謝しています。また、役員招待規定も作りました。今後協会の執行部がこの規定の精神を汲み取り、どのように運用してくれるかを見守りたいと思っています。豊かな感性を持ち、創造性を発揮して協会運営に携わってくれることを希望します。

マラソンフェスティバル（仮称）準備委員会事務局長として、昨年8月より中日新聞北館3階事務局に勤めています。来年（平成24年）3月11日に3万人規模の女子マラソンと男子も入れたハーフマラソン、10kmロードレース、4kmジョギング大会を開こうという計画です。しかし名称も仮称ですし、不景気が影響して予算もコースも決まらないまま、計画がどんどん遅れて心配しておりました。それでも1/31～2/2にかけて山を二つほど越えた感じが致します。一つは国土交通省の了解を取りつけたこと、もう一つは交通関係者会議においてコースの了承を取りつけたことです。

これからはコースの仮検定、業務計画の立案、ボランティアの募集、ボランティアの業務の検討、研修概要の確立、ボランティア事務局の立ち上げ、交通渋滞の予測、迂回路の検討、公職者ならびに住民へのコース説明、募集要項案の作成、会場運営計画の検討、実行委員会の立ち上げ等、やっていかなければならないことがたくさんあります。愛知陸協会員の全面的で強力なバックアップをお願いします。

支 部 報 告

名古屋支部

伝統の名岐駅伝では、名古屋支部登録の実業団（愛知製鋼、愛三工業、トーエネック、中央発條、庄内RT）チームの活躍があり、今後の尾張部の長距離陣の奮起につながることを強く期待しています。



平成22年度の支部事業は冬期鍛練期の陸上教室（陸協主催、支部普及）をもって無事終了しました。スタッフ・コーチの方々に深く感謝しています。特に1月8日の教室では、午前に瑞穂、午後半田の会場へ日本選手権100m2連勝の江里口選手（早大）を招き、短距離のスペシャリストの指導を直に受

けました。感動と共に強さの一端を体験し、参加した約1300人の選手にとって、この刺激が今後の活躍に生かされるよう期待しています。

平成23年度は、ジュニア・ユース大会の他、日本陸連のU-12教室や日中韓ジュニア陸上も瑞穂で開催されます。22年度の反省とし



ては、審判員の出席が特定の方に片寄っている事があげられます。一方で年間出席日数が20回に達せず、昇格や表彰の機会から外れる方が多々あり、残念でした。

いよいよ平成23年度の陸上シーズンの幕開き。選手・審判員・指導者共に、名古屋支部の発展に向けて頑張りましょう。

- 1 平成22年度支部表彰（4/3）
優秀審判員、優秀選手、優秀指導者。
- 2 平成23年度交代理事

支部長（坂井田醇三）、理事長（青木 実）
新理事（桑原義貴、小野田 隆、秋田明憲、竹内 猛）
退任理事（竹内信雄、大矢新吾、渡辺幸多、桑山幸久、
長尾涼子、長谷川欽市）

3 今後の予定（4月～6月）

- ① 4/2・3（土・日）第1回名古屋支部陸上記録会（瑞穂）
- ② 5/7・8（土・日）第2回名古屋支部陸上記録会（知多）
- ③ 5/21（土）名古屋支部中学混成、小学生春期記録会（半田）
- ④ 6/4・5（土・日）県選手権名古屋支部予選会（瑞穂）
- ⑤ 6/12・18（日・土）中学通信名古屋支部予選会（12
瑞穂、18知多）

（坂井田醇三）

尾張支部

22年度を振り返って

平成22年度の尾張支部関連事業は、3月の支部総会を

残して全ての事業を当初の計画通り終了することができま
した。事業の企画、準備、運営に何らかの形でご支援、ご
協力をいただいた関係各位に心よりお礼を申し上げます。
誠にありがとうございました。

さて私たち尾張支部の陸上関係者にとって、ここ2年間
の支部所属団体の選手の皆さんの活躍は目を見張るものが
ありました。その第一は競技を支える各団体、学校関係者
の陸上競技にかける熱意と競技会の盛り上がりにあります。

それぞれの団体においては、科学的な根拠に基づく効果
的な練習、そして飽くなき努力と実践がなされています。
各々がライバル、パートナーとしての健全な意識を持ち続
け、切磋琢磨して積み上げたものが練習会や競技会での好
結果を生んでいます。

競技スポーツは自己の身体、心理への格闘的挑戦とも言
われています。身体的能力の向上にとどまらず、毎日我慢

ホープリング⑮

北島茉璃さん（瑞陵高校2年 走高跳、三段跳）



東海総体に優勝したときの跳躍

長距離走もかなり高い能力があります。

走高跳について技術的にみると、入学から昨年の沖縄総体までは補助付きの6歩の助走で跳躍をしていましたが、総体後に補助助走なしの10歩助走に変更をしました。それにより助走が安定し、特にスタートから6歩のストレートの助走が自然に大きくなり、確実に地面をとらえて無理なくスピードを上げることができるようになったことです。一見バウンディングをしているように見えますが、まったく違う感覚で助走をしています。その結果十分にリラックスした走りができるようになり、スピードを殺さない踏切につながっています。

技術的なチェックは、定期的に至学館大学の阪本先生や本校OBの日本記録保持者の今井美希さんが指導をしてくれています。特に最近、今井さんのメンタル面でのアドバイスなどがいい影響を与えていると思われます。

彼女の特長は、何ととってもオールラウンドなことです。100mから400mまで、100H、400Hもこなします。リレーは400Rもマイルリレーも2走を走ります。全国総体のマイルリレーで走高跳と兼ね、特に2走を走っている選手は彼女だけでしょう。マイルリレーで全国大会への連続出場を狙う我校にとっても頼もしい存在となっています。

さて今年はいよいよ3年生になり、最後のインターハイを迎えます。彼女は、全国インターハイではまだ結果を出していません。しかし今年、日本陸連から日本ジュニア・ユースの候補選手にも選ばれ、高いレベルでの合宿などを経験し、身体的にも精神的にも充実した状態を保っています。今後けがに気を付け順調に練習をこなしていけば、今年には必ず岩手の北上でビッグジャンプを見せてくれると期待しています。

めざせ 頭上20cm！

（瑞陵高校陸上競技部顧問 浜島 勝・太田 良平）

昨年10月に瑞穂競技場で行なわれた日本ユース陸上競技選手権大会において1m75cmを跳び、初めて全国大会で優勝することができました。千葉国体で5位に入賞し、その勢いをそのまま維持できたようです。

中学時代に1m63cmを跳んでいましたが、入学をして最初に跳ばせた時には足合わせも全くせず突然助走を開始して跳び始めました。毎回スタート位置が違うのに踏切は常に合っていることに大変驚いた記憶があります。助走はまるで駄目でしたが、それだけ素質を感じさせるものがありました。身長は1m61cmとハイジャンパーとしては決して高くはないのですが、それを十分に補うスピードとジャンプ力を持っています。また、変わったところでは持久力がたいへん高く、



千葉国体で5位入賞

強く、また優しく、厳しく、温かい包容力で支えていただけたリーダー、指導者の存在も忘れられません。

また忘れてならないのは、愛知県一宮総合運動場陸上競技場の全天候型グラウンドへの改修とそれに伴う職員の方々の組織としてのサポートであります。

様々な要素一つ一つが目に見えない形で結びつき素晴らしいパフォーマンスとして形を結び高い評価につながりました。陸上競技を愛すればこそその結果であります。

下記に示した表と写真は、陸上教室の参加状況と年度末の最後を締めくくった尾張駅伝の様子です。高校男子の部で優勝した弥富高校は今や尾張のシンボルの存在になりました。



弥富高校



尾張駅伝の様子



<陸上教室>

参加者

	小男	小女	中男	中女	高男	高女	計
短距離	108	112	74	68	188	119	669
中長距離			55	28	131	76	290
障害			24	19	61	51	155
跳躍			67	61	100	22	250
投てき			17	16	95	51	179
競歩			0	0	21	13	34
計	108	112	237	192	596	332	1577

コーチ

	第1回	第2回	第3回	計
小学生	6	5	4	15
短距離	7	9	8	24
中長距離	2	2	1	5
障害	5	4	5	14
跳躍	4	5	6	15
投てき	7	8	9	24
競歩	4	5	5	14
計	35	38	38	111

(原川 豪)

西三河支部

西三河支部の行事が毎年当たり前のように円滑に消化されるのは、何と言っても審判員・運営委員の方々の献身的なご努力によるものと感謝いたします。県レベルの大会は常時3割以上が西三河支部の審判員で占めているのが現状

です。来年度も引き続きご協力をよろしく申し上げます。本年度は、前回までの広報に結果が記載されているように、小学生から実業団に至るすべての年代において、全国大会入賞者を出すことができましたことを嬉しく思います。



本年度の最後の行事であります陸上教室は、第1回12/23、第2回12/26、第3回1/22の3回にわたり、延べでスタッ

フ160名・中高校生選手約2,200名近くの参加がありました。教室は、検定に伴い全天候トラックの張り替え、トラックとスタンドの仕切りフェンスの設置などの改修工事が終了した安城市営陸上競技場で実施されました。



幸いに3回とも好天に恵まれ、年末年始のお忙しい中、中京大学の青戸慎司先生をはじめそうそうたるコーチングスタッフのきめ細かい熱心なご指導のもと、終了することができました。

西三河支部の選手の強さの伝統も、毎年こうしたコーチ・トレーナーの先生方のご協力と、それぞれの年代の選手を熱心にご指導いただいている先生方のお陰と感謝しています。

来シーズンへ向け各自がそれぞれの課題をこなし、一人でも多くの選手が納得のいく結果を残すことが、お世話になった先生方への一番の恩返しになります。来年度も大いに活躍をしてくれることを期待しています。

3月12日には強化練習会の一環として簡単な記録会を行ない、来シーズンへの試運転の機会を持ちました。



禪昌寺山門前にて

あいと一日を楽しみました。

バスツアーによる支部懇親会が、2月20日に開催された。一年おきに開催されていたこのバスツアーも、何と8年ぶりの開催となり、待ちに待った32名が和気あい

今回は、下呂方面を企画。臨済宗妙心寺派の禪昌寺をまず初めに訪れました。雪舟筆大達磨像は、古美術中の逸品とされているだけに、迫力あるその絵にしばし見とれました。その後寺宝を見学し、一路望川館へ。宴会の後温泉につかり、ゆっくりと心を癒やし、下呂温泉合掌村へ。村内にある白川郷から移築した10棟の合掌造りの民家を1時間余り散策。飛騨人の素朴な心が息づいている歴史の一端に触れ歴史の重みを肌で感じることができました。充実し

クラブ紹介⑮ OWLS



2011 名岐駅伝一般の部で 26 位でした

はじめまして こんにちは。

OWLS です。読み方は、『オウルズ』です。愛知陸協広報の名物コーナーである、クラブ紹介欄の原稿を執筆するというバトン？襷？がなぜか回ってまいりました。2007 年のチーム発足からわずか 4 年、参考までにと渡された過去の広報を見てみれば、伝統のあるチームばかりが紹介されており、本当に我々でいいのかと大変恐縮するとともに、少しは認知されてきたのかなと前向きに捉え、この原稿を書いております。

さて、先ずはチームの名称に関してですが、冒頭のように読んでください。略称ではありません。由来となった owl は『梟（ふくろう）』という意味なのですが、NBA の TV 中継を観ていて、響きの格好良さで英語のチーム名にしたかったということ、メインの練習時間帯が夜であるという単純な理由でこの名前にしました。

次にメンバーです。最初は 4 人でしたが、いつのまにやら自然と増えていき、今現在 20 羽が確認済みです。間違えました。20 人が所属しています。各人の年齢・経歴・職業・生活拠点はバラバラですが、『陸上大好き・陸上バカ』という点で共通しています。練習はそれぞれの生活に合わせ、各自のペースで自分の目標に向かって行なっています。陸上競技に対する姿勢は、一人一人にお任せするというのが基本的なスタンスです。そんな状況でありながら、名岐駅伝に出場することができたり、日本選手権に出場するような選手がいることは非常に幸運であり、お互いに顔を合わせる機会は多くはないですが、チームメイトに恵まれたと感じています。

今後これといって特にチームとしてやりたいことがあるわけではありませんが、メンバーには、陸上競技をやめないこと・続けること。陸上競技を愛し続けること・陸上バカであり続けることを望んでいます。皆様には、OWLS を『オウルズ』と読んで、呼んでくれることを望んでいます。

最後になりましたが、このような文章を掲載して下さった愛知陸協の皆様、また日頃支えてくれる家族と友人に感謝とお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。
(代表 泉川 拓)

た一日を心豊かに過ごせたい懇親会でした。

(柴田 和秀)

東三河支部

22 年度を振り返って

今年も東三河支部にとって、とても充実した 1 年でした。そこで、私の独断で今年の 10 大ニュースを作ってみました。

☆第 1 位 トヨタが全日本実業団駅伝初優勝

正月の風物詩でもある上州路で行なわれた全日本実業団駅伝で、トヨタ自動車富士通と日清食品グループとの三つ巴の大接戦を制して、悲願の初優勝を果たしました。

☆第 2 位 高校総体での大活躍

沖縄県で行なわれた全国高等学校総合体育大会に、7 校から 13 名の選手とリレー 1 チームが出場を果たしました。そして、女子 3000m でワイナイナ・ムルギ（豊川）が優勝、鈴木美乃里（豊川）も 7 位、男子 1500m でも、小島秀斗（豊川工）が 5 位に入賞しました。

☆第 3 位 ジュニアオリンピックでの大活躍

ジュニアオリンピック陸上競技大会には、6 名の選手が出場し、中野真琴（豊橋東部中）が C クラス 100m と 4 × 100mR で優勝し、飯島康介（西浦中）が C クラス 1500m で 3 位に入賞しました。

☆第 4 位 世界ジュニアでの活躍

カナダのモンクトンで行なわれた世界ジュニア選手権で、鈴木亜由子（時習館高一名大）と伊澤菜々花（豊川高一順大）が、5000m で 5 位と 8 位に入賞しました。

☆第 5 位 豊川高校が高校駅伝女子準優勝

惜しくも岡山の興譲館に 3 連覇は阻まれましたが、前年

の優勝タイムを 20 秒上回り準優勝を果たしました。

☆第 6 位 中学総体での活躍

鳥取県で行なわれた全日本中学校陸上競技選手権大会に、4 校から 6 名の選手が出場を果たしました。そして、100mH で萩原加奈子（高豊）が 2 位に入賞しました。

☆第 7 位 豊川工業が高校駅伝 13 年連続出場

☆第 8 位 豊橋市が愛知県市町村対校駅伝 2 連覇達成

☆第 9 位 渡邊正昭（豊川工業高教）平沼亮三章、石川立恵（鷹丘小教）河野謙三章、伊澤菜々花（豊川高一順大）春日弘章を受賞

☆第 10 位 豊橋市陸上競技場の大改修 (兵藤 重二)

専門委員会報告

総務委員会

登録について

2011 年度より、一般団体登録及び中学生が所属するクラブ登録が Web システム化され、登録方法が大きく変更されますので、ご注意ください。

公認の陸上競技会等に審判員・競技者として参加するには、愛知陸協に登録し、日本陸連の登録会員になることが必要です。登録は、毎年更新するものであり、有効期間は毎年 4 月 1 日より翌年 3 月 31 日までです。登録に関して、例年と若干内容が変わっております。愛知陸協発行の「登録要項」を参照し、手続きを早めに済ませてください。不明な点は、愛知陸協事務局（052 - 249 - 4363）までご連絡ください。なお、年度の登録申請手続きは、2011 年 3

月1日より11月30日までに終了してください。登録申請先及び連絡先は、下記の担当者までお願いします。ただし、転勤等により新年度の担当者の所属が変わる場合があります。

一般団体登録及び個人登録

名古屋	水野 隆夫	
尾張	原川 豪	
西三河	山村 晃泰	刈谷高等学校
東三河	山本 誠司	蒲郡東高等学校

高校生登録

名古屋北	新美 準人	菊華高等学校
名古屋南	小田垣充雅	名古屋女子大学高等学校
尾張	宮本 智	尾北高等学校
知多	成田 稔	東海南高等学校
西三河	清水 文昭	岡崎工業高等学校
東三河	加古 勇	豊橋商業高等学校

大学生登録

全 県	愛知陸上競技協会	052-249-4363
-----	----------	--------------

中学生登録

名古屋	森 剛人	日進東中学校
尾張	長瀬 基延	宮田中学校
西三河	細井 太郎	城南小学校
東三河	横内 隆之	石巻中学校

(稲垣 裕)

競技・情報処理委員会

平成22年度もすべての競技会を無事に終了することができました。みなさまのご協力、ご支援に感謝申し上げます。

平成22年度は、10月に日本ジュニア選手権大会、日本ユース選手権大会が瑞穂陸上競技場で行なわれました。この大会の概要については、広報19号でも紹介をさせていただきました。競技・情報処理委員会では、当日の大会運営だけでなく、この大会の申込要項、申込用紙の作成や大会要項、競技時間、競技注意事項の作成と準備の段階から多くの場面で作業を行ってきました。また、申込書類の資格審査やプログラム編集作業も行ない、多くの方々に協力をいただき無事に完了させることができました。これらの作業の中で申込方法や資格審査、競技会運営など多くの場面で課題も発見されました。このような全国レベルの大規模な大会の準備、運営を行なうことによって、県内で毎年行なっている競技会の運営、準備にもさまざまな問題点や解決策があることがわかりました。この経験を生かし、競技者が参加しやすい競技会をめざし、運営方法などを改善していきたいと思っております。

平成23年度は、日本ジュニア選手権、日本ユース選手権をはじめ、日中韓ジュニア交流競技会、全国ろうあ者大会、東海選手権、東海中学総体などの大会が愛知で開催されます。これらの大会の準備、運営を通じて、さらなる競技運営力の向上を図っていきたくと考えております。

今後ともご協力ご支援のほどよろしく申し上げます。

(安田 純久)

施設・用器具委員会

2011名古屋国際女子マラソン大会を無事終えました。来年2012年からは「名古屋国際女子マラソン大会」と「名古屋シティマラソン」を併催する大マラソン「マラソンフェスティバル(仮称)」に向け開催準備に入っています。新コースは現コースを約70%利用したもので、交通関係者やコース沿道の地元住民の合意に向けて、マラソンフェスティバル開催準備委員会の一員として愛知陸協も頑張っています。4月には実行委員会が立ち上がり、6月にはコースを本検定し正式に公表される予定です。

ロードからトラックシーズンスタートに向けて、各陸上競技場の施設用器具等の点検をお願いします。特に、投てき用具の重さの確認を必ずお願いします。

①「第1種・第2種公認陸上競技場の基本仕様」の改正と「公認陸上競技場及び長距離競走路規程」の修正と「陸上競技場公認に関する細則」の改正と「用器具の個数等」の改正が日本陸連理事会・評議員会(2010.12.3)で承認されました。詳しくは、2011年4月1日よりのルールブックを参照してください。

②豊橋市営陸上競技場は、全天候舗装部分を全面オーバーレー工法で改装されました。3月下旬に検定も実施しました。詳しくは次号で報告します。

③瑞穂陸上競技場のフィールド内の芝生の広さ(106m×69m)が、サッカーの関係で横幅がバック側に2m拡大されました。3月上旬に検定を実施しました。

④2月20日に「マラソンフェスティバル(仮称)」のマラソン・ハーフマラソン・10kmコースの仮検定を、早朝6時から11時にかけて青木検定員・桑原B級国際自転車計測員・平川技術役員他8名で実施しました。

⑤日本陸連主催「国際自転車計測員研修会」が3月19日～21日に開催されました。桑原計測員は講師陣の一員として、平川技術役員はC級国際自転車計測員の資格の取得を目指して参加しました。詳しくは次号で報告します。

(青木 実)

選手強化委員会



国体候補選手強化合宿(内海)

都道府県対抗男女駅伝報告

「女子は駅伝になった」「男子は駅伝にならなかった」渡辺駅伝部長の言葉を借りると、これが今年度都道府県対抗駅伝の総括です。

「県代表だ」「選りすぐりの集団だ」「これが愛知の顔だ」代表合宿から本大会までのミーティングで、監督・コーチ全てのスタッフは選手に自覚を求めました。当然選手は相

当のプレッシャーを感じていたことでしょう。男子のミーティングではそれを口にする選手がいました。

プレッシャーは選手が乗り越えなければならぬ自分自身の壁です。大きな舞台に立つ選手ほどその壁は高く、厚く困難を伴うものです。それを乗り越える時が代表に選ばれた“今”であり、求められるものは“集中力”なのです。「緊張やプレッシャーを感じている時は脳が集中していない証拠だ。それを乗り越えなければ勝利はない」これがテーマでした。

所属のチーム編成と違い、寄せ集めの選手をひとつの集団にまとめ、ひとつの襷を繋ぐ駅伝競技としての本質を追及しなければなりません。

レース概要を女子より振り返ります。

昨年に引き続き1区を任せられた鈴木亜由子選手(名古屋大)は、区間優勝争いを最後まで演じました。故障から復帰し、高校最後のレースとして走った昨年と違い、世界ジュニア・国体入賞の実績からの起用であることから、大きな期待を寄せていました。鈴木選手の1区は、期待通りのトップ争いでの良い流れを作りました。2区の伊澤選手(順天堂大)も昨年に続いての代表入り。世界ジュニア入賞実績での選考です。この区間で上位争いをしながら中学生区間に引継ぐ戦法でしたが、離される展開に転じてしまいました。選考合宿での走りやや不安を感じていたことが原因であると思われます。

3区中学生区間の山田選手(みよし北)は2年生。初出場ながら堂々の区間8位でした。愛知駅伝区間賞のインパクトをそのまま全国に繋げた結果でした。「愛知のユニフォームを着て走ることを目標に頑張ってきました」と県代表入りの喜びをミーティングで誰よりも熱く語った中学2年生は、すでに来年を見据えていることでしょう。4・5・6区は高校生が担当した区間です。ここ3年間で全国優勝2回、準優勝1回を誇る豊川高校の鈴木、黒川両選手と、中学3年生以来2年ぶりの代表となった進境著しい清田選手(中京大中京)が担当しました。鈴木選手が5位に押し上げ、跨線橋の勝負どころのアップダウンを制した清田選手がチーム最高区間順位3位、総合4位で中継しました。1年生の黒川選手が区間16位、総合6位と後退して愛知電機の田鍋選手に中継、襷は中学生の松井選手(高豊)に引き継がれました。予定より30秒遅れましたが、区間順位はひとつだけ落として、アンカーの小倉選手(四国電力、ふるさと選手)に入賞を託す展開となりました。アンカー区間は最も順位変動が見られ、過去にもチーム愛知が泣かされてきた区間です。昨年は加藤選手(パナソニック)の奮闘があり、歓喜の入賞シーンが見られました。展開によっては入賞圏外も覚悟しなければならない、トップ選手が多く走る最終区でしたが、今年もヒロインの出現で嬉しい6位入賞を果たすことができました。小倉選手にとっては豊川工業時代から2回目の県代表入りで、今回は一番の仕事をしたこととなります。特に競技場でのラスト勝負で2名の選手を振り切った走りは、常々スタッフが理想と掲げる「中学生、高校生の見本となるお姉さん選手の走り」を見せてくれました。翌日の中日スポーツ紙にも大きく掲載された走りです。昨年よりひとつ順位を上げた連続入賞にゴール直後は満足感を覚えました。3位入賞も可能であったと分析できます。近い将来優勝することが目標である女子チームにとっては大きな前進となりました。しかし、優勝するためにはいくつものハードルが存在します。

今回勝利した京都は、圧倒的に強い実業団選手を擁しての結果です。都道府県駅伝は実業団選手に依存することで結果が大きく左右されますが、それは本来の地域の強化から逸脱するものであると愛知チームは考えます。愛知としては、県内から育った選手からの編成が理想であることを理念とする方向性をスタッフ一同確認しました。

今年度女子県代表チームは国体リレー5位、ジュニアオリンピックリレー優勝、そして都道府県女子駅伝6位と全て入賞を果たしました。県代表種目において全て入賞したのは愛知だけで、これを得点換算すると全国1位でした。

2010年度 オール愛知(女子)成績

順位	県名	国体リレー	ジュニアオリンピックリレー	都道府県駅伝	得点
1	愛知	4	8	3	15
2	京都	5		8	13
3	埼玉	8	2		10
4	千葉	3		5	8
5	山口	7			7
	兵庫		7		
	熊本		6	1	
	岡山			7	

* 国体方式で1位8点、2位7点…8位1点で換算

過去15回の男子駅伝の平均順位は7.7位。この10年では優勝を含め入賞6回で平均順位は6.3位。第1回大会の15位を除き安定した結果を残すのが男子駅伝の特長でした。今年16回大会での25位は極めて例外的な結果です。冒頭で総括したように「駅伝にならなかった」のが男子でした。個々の力不足は否めませんが、それだけではないはず。今回で勇退する亀鷹監督の意思を引き継ぐと同時に、根本的なレベルアップを図ることが肝要です。

今年も両大会において、大会期間中愛知県人会の皆様からの激励やご厚情を頂きました。さらに今回初めての試みとして、愛知陸協から女子駅伝応援バスツアーを企画していただき、沿道やスタンドから熱烈的な応援を受け、選手、関係者共々感激しました。本大会関係各位、選手起用に関してご配慮頂いた所属の皆様方、愛知陸協応援団の皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

(北村 肇)

記録委員会

小中学生の頃は1日1年が長く感じた記憶が残っていますが、年齢を重ねるごとに早く過ぎる感があります。つい先日2009年記録集の編集が終わったばかりの気持ちの中、もう2010年編集の時期となり、12月末までに日本陸連監修の記録集資料のチェック、大会リザルトの保管場所(物置)まで何度となく出入りし削除、追加、修正し報告。さらに陸上競技専門誌へ資料の提供をします。並行して2010年愛知記録集の編集のため8月、11月にチェックは終わっているが、細心の注意を払い再度確認とチェックを済ませ、誤字、順位等のチェックと平均記録の計算、県記録一覧表関係の修正、パソコンへの再入力後、最終のチェックを済ませ発注が2月中旬になり、3月1日の発行となりました。2010年記録集は、平成16年度から道路記録が最高記録から最高が取れたことにより、愛知陸協も遅まきながらトラックと同一の扱いにしました。また、日本ジュニア・ユース選手権の主管を機に愛知県ジュニア記録

学校紹介⑪ 祖父江中学校 H22年度全国中学校駅伝大会 女子の部代表校

今回は、昨年の12月に山口県で行なわれた全国中学校駅伝女子の部で愛知県代表校となった祖父江中学校を訪問しました。尾張地区初の全国大会出場校です。尾張地区で初の県大会優勝校というわけではないですが、まだ全国大会が開かれていない頃のことであり、祖父江中は尾張地区初の全国大会出場校となったのです。県代表になるにはそれ相応の理由があると思い、取材をしました。



長距離パートメイン練習

ごしていたのです。練習の効果が上がるためには、部員どうしの仲が良いことが前提条件となると思うのですが、その点非常に良好な状態だと思われました。

生徒たちがルーティンワークのドリルを終えて本練習に移る頃に、もう一人の方が姿を現しました。田中俊裕さんというOBの方です。愛工大名電高校で活躍され、大学でも長距離に取り組みされたというOBです。田中さんはお寺の方で、比較的自由に時間を取れるということで、週4日ほど顧問の先生と共に指導なさっているとのことでした。祖父江中が県の中学駅伝で優勝した陰には、専門的なトレーニングを積んだコーチの働きもあったのだろうと思われました。田中さんによれば、長距離ブロックの走る時間そのものは、それほど多くないとのことでした。訪問した日が学年末テスト明けだったということもあってか、実際、メインの練習は30分ほどのジョグでした。その分、走りの後に長い時間をかけて体幹トレーニングを行っていました。中学生の成長段階をしっかりと踏まえたトレーニング計画が作られていると思われました。短距離ブロックも、タイヤ引きを含めた補強トレーニングや体幹トレーニングに時間をかけていました。大下先生によれば、体幹トレーニングや補強トレーニングをしっかりとやるようになってから、短距離ブロックもタイムの短縮が安定した形で現れるようになったそうです。



体幹トレーニング



砂浜コース

ここまでの内容であれば、他の学校でも見られるものであり、祖父江中が県で優勝するためには他に何かあるのではないかと尋ねてみました。すると、2kmほど離れたところに絶好のトレーニングコースがあることを教えてくださいました。そこで、実際に田中さんの案内でその緑地公園を訪ねてみました。そこには緩い傾斜の周回コースがあり、走れば心肺機能がや筋力が鍛えられるような気がしました。舗装された周回コースの外側には木々の植え込みがずっと続いており、そこは落ち葉が積もってクロスカントリーコースのようになっていました。田中さんは、全国大会がクロスカントリーのコースで行なわれるので、その予習としては絶好のコースだったとおっしゃっていました。さらに、緑地公園の北側にはもっと練習の効率を上げるだろうと思われるコースが広がっていました。木曾川左岸に広がる砂丘と木々の間を縫う、ちょうど1kmほどの簡易舗装の比較的柔らかな周回コースです。砂丘は脚筋力を鍛えるのに絶好ですし、周回コースは木々の間にあるということで、夏には5度くらい体感温度が低いような気がするほど、絶好のトレーニングコースになっています。祖父江中には、地の利という強い味方があったのです。冬は日没が早いので利用しにくいですが、夏にはよく利用することでした。自然を利用したトレーニングが成果をあげたことは間違いありません。

そして、もう一つ。県大会で優勝するまでには、戦略もあったことを付け加えておきます。今年のチームは3年生が4人、2年生が1人という構成でしたが、3年生4人のうち3人は1年生の時から出場していたそうです。しかも1年生の時にはその3人に1区～3区を走らせて経験を積ませたそうです。その時は28位に終わりましたが、その3人が主力となった翌年は、杏掛中学校との勝負だということで、十分に情報も収集されたそうです。残念ながら杏掛中との一騎打ちというまでにはなりませんでしたが、4位に入りました。そして今年が優勝ということになったのです。3年計画という、長い目で見て選手を育てる戦略が功を奏したと言っていいでしょう。

練習のしめくりは、時間をかけたマッサージでした。まだあまり体ができていない中学生の体を思い図ってのことでしょう。けがをしまっては、停滞するばかりでなく、後退してしまいます。故障は未然に防がなければなりません。その点十分に配慮されていました。体幹トレーニングとマッサージは校舎内の廊下で行なわれていたのですが、これも寒い時期の工夫の一つでしょう。そして、この時に感じたことをもう一つ付け加えておきます。それは、廊下にかかる時の生徒たちの行動です。きちんと揃えられた靴の並びには感心しました。全ての靴の方向がグラウンド側を向いて揃っているのです。陸上競技の指導の前の、いわゆる生徒指導がしっかりとされているように思われました。これも、陸上競技の指導の実(じつ)を上げるのに役割を果たしているように思われました。



揃えられた靴

地の利(練習環境)、人の利(OBのボランティアコーチ)を生かしながら、今年も祖父江中学校が活躍すると確信しながら、取材を終えました。

(取材・文責 大西 敏功)

を新設しました。ユース最高記録についてはもう少し様子を見たいと思います。

2010年の新記録等については、県新記録は男子2種目3、女子5種目8(手動を含む)、高校新は女子1種目2、中学新は男子2種目3、女子3種目4、中学タイは女子1種目1。外国人は男子2種目3、外国人男子高校は2種目2、小学生最高は男子3種目4、女子1種目1、4年混合リレー1、以上のような感じでした。昨年に比較して少し低調だった感じがします。

平成23年度の公認記録申請方法については、例年通りと思いますが、日本陸連の指示を待って各支部記録委員長、高校、中学記録担当者へお願いするとともに、次号に掲載します。

◎ 2010年に更新された愛知県新・タイ・最高記録等 (2010.12.31 現)

愛知新記録

男子4×100mR 39.71 中京大学
(中川恵輔、杉本隆、服部辰也、田口博崇)
第23回 西日本学生対校(博多の森)7月3日
100km 7.49.57 萩野 浩(名城オールランナーズ)
7.54.57 安田 遊(刈谷クラブ)
8.05.02 新井義浩(中部電力名古屋)
第25回 サロマ湖ウルトラマラソン(北見)6月27日
女子100m 11.64 今井沙緒里(至学館大)
第53回 東海選手権(松本)8月29日
11.66 市川華菜(中京大)
第79回 日本学生対校選手権(国立)9月11日
100m(手動) 11.6 今井沙緒里(至学館大)
平成22年度第4回中京大土曜競技会(中京大)8月7日
200m 23.73 市川華菜(中京大)
2010日本学生個人選手権(平塚)6月19日
23.68 今井沙緒里(至学館大)
第53回 東海選手権(松本)8月28日
400m 54.15 市川華菜(中京大)
第65回 国民体育大会(千葉)10月4日
10000mW 47.00.60 占部磨美(三菱自岡崎)
第58回 全日本実業団対抗(新潟)9月25日
走幅跳 6.30 中田有紀(日本保育サービス)
第94回 日本選手権(混成)(等々力)6月13日

高校新記録

女子棒高跳 3.31 高木志帆(中京大中京高)
第65回 国体選手選考強化普及(瑞穂)4月10日
3.40 高木志帆(中京大中京高)

第70回 愛知選手権名古屋支部予選会(瑞穂)6月5日

中学新記録

男子1500m 4.01.27 西山 令(葵)
第64回 西三河中学選手権(刈谷)7月22日
4.02.95 西山 令(葵)
第64回 県中学総合体育大会(瑞穂)7月30日
110mJH 14.71 古本 翼(とよたAC・みよし南)
第31回 愛知ジュニアオリンピック(瑞穂)9月3日
女子100mH 14.09 萩原可奈子(高豊)
第56回 全日本中学通信・愛知大会(瑞穂)7月19日
14.23 萩原 可奈子(高豊)
第64回 県中学総合体育大会(瑞穂)7月30日
4×100mR(混) 47.68 愛知選抜

(中野真琴・杉山美貴・伊藤南侑・北野有紀)
第41回 ジュニアオリンピック(日産スタジアム)10月24日
100+200+300+400mR 2.20.24 千種

(橋詰奈々・早川有香・久保坂優子・山田晴帆)

第7回 愛知レディース大会(瑞穂)7月4日

中学タイ記録

棒高跳 2.90 船本 新奈(鳴海)

第70回 愛知選手権(瑞穂)7月17日

一般外国人

男子 20km 57.31 W・ジャコブ(愛知製鋼)

第26回 名古屋ハーフマラソン(途中)(名古屋)11月23日
58.06 S・ドゥング(愛知製鋼)

第38回 全日本実業団ハーフマラソン(途中)(山口)3月21日
ハーフマラソン 1.00.32 W・ジャコブ(愛知製鋼)

第26回 名古屋ハーフマラソン(名古屋)11月23日

高校外国人

男子 3000m 8.11.40 K・ジェレミア(豊川)

平成22年度 駅伝強化豊橋長距離(豊橋)9月23日
5000m 13.50.57 K・ジェレミア(豊川)

2010 第3回 静岡長距離強化(小笠山)9月18日

小学生最高

男子 4×100mR 49.16 安城ジュニア陸上クラブ

(大参祐輝・永谷礁汰・伊藤廉・川崎ライアン)

日本ジュニア・ユース選手権・招待リレー(瑞穂)10月16日
4×100mR 49.51 安城ジュニア陸上クラブ

(寺本博之・永谷礁汰・伊藤廉・川崎ライアン)

第26回 全国小学生交流(国立)8月28日

ボール投 81.54 M・クリスティラ(大須AC)

第27回 県小学生リレー(瑞穂)6月27日

4年走幅跳 4.47 中野 裕仁(JAC武豊)

第24回 愛知県小学生選手権(瑞穂)11月3日

女子 4×100mR 52.40 安城ジュニア陸上クラブ

(平塚由季・森下夏帆・木俣結子・樋口香華)

第27回 県小学生リレー(瑞穂)6月27日

混合4年生 4×100mR 58.01 豊橋陸上クラブ

(米重美紅・生田奈緒子・松山卓暉・村田響)

日本ジュニア・ユース選手権・招待リレー(瑞穂)10月16日
(岡田 武彦)

女性委員会

全国都道府県対抗女子駅伝 応援バスツアーの報告



愛知陸協応援バスツアー

1月16日(日)、京都の西京極競技場を発着点とした都道府県対抗女子駅伝の日帰り応援バスツアーを実施しまし

た。予てから北村強化委員長より「京都の女子駅伝は、近いので是非応援に来て下さい」と強い要望が出ていました。これを受けて稲垣総務委員長が日帰りバスツアーを企画し、総務委員会と女性委員会が中心になり実施しました。ツアーは40名限定で募集しましたが、参加者は26名と定員に達しませんでした。しかし、日ごろ大会の審判で活躍している人たちをはじめ、賑やかなメンバーが揃いました。

参加者達は、雪の降りしきるなか名古屋駅に集合し、定刻通り午前8時に京都に向けて出発をしました。途中の高速道路では雪のために何か所も渋滞し、駅伝のスタート時刻までに無事到着することができるのか不安でした。しかし、参加者達から不満が出ることはありませんでした。車中は、稲垣総務委員長の用意した「駅伝クイズ」や「この人に聞く昔話」等で異常な盛り上がりを見せ、楽しい時間を過ごしました。

午前11時30分、定刻より遅れて西京極競技場に到着したため、2区～9区の選手たちはすでに中継所に向けて出発をした後で、「声援で見送ること」はできませんでした。愛知チームの控え場所で、待機をしてみえた渡辺駅伝部長に応援に来たことを伝え激励しました。スタンドには、県体育協会で作っていただいた横断幕2枚を設置しました。新しく作った応援用の小旗をそれぞれ手に持ち、タクシーや地下鉄でコースに応援に出る人と競技場に残る人に分かれられました。競技場に残った人達は、楽しみにしていた「ふるさと屋台村」(県人会主催の郷土料理販売)で、玉こんにゃくや長崎ちゃんぽんやジャガバター等をつまみながら、大型ビジョンを見て応援をしました。

レースは、1区の鈴木亜由子選手が6位と良いスタートをきり、4区鈴木美乃里選手や5区清田真央選手や7区田鍋舞選手の活躍で最終9区の小倉久美選手に6位でタスキを繋ぎました。愛知・神奈川・熊本の3チームが6位～8位と抜きつ抜かれつの混戦をする中、小倉選手が競技場に戻ってきました。走り終わった1区の鈴木選手や2区の伊澤選手、そして5区清田選手の応援に来ていた中京大中京高校の生徒達と合流し大応援団となり、第2コーナー付近のスタンドから小旗を振って小倉選手に声援を送りました。「がんばれ愛知!」「がんばれ小倉!」その声援に応えるかのように、小倉選手はすばらしいラストスパートをみせてくれました。愛知チームは、見事6位入賞を果たしました。その瞬間、声援は「万歳!万歳!」に変わっていました。感動冷めやらぬ中、記念写真を撮り、愛知チームの皆さんにお祝いとねぎらいの言葉を送り、足早に帰郷の途につきました。

帰りの車中では、みな疲れていましたが眠ることもなく、おしゃべりと食欲を満たすことで時間が過ぎました。しかしバスが名古屋に近づくにつれ、積もった雪の量の多さにみな言葉が少なくなっていました。午後7時30分、雪による渋滞のため定刻より遅れて名古屋駅に到着しました。参加者達は、「楽しかったので、また来年も是非行きましょう」そんな言葉を掛け合いながら別れました。しかし雪のためにバスが遅れ、電車が止まり道路も渋滞して、それぞれがとても苦勞をして、さらに何時間もかかって帰宅することになりました。参加者の皆さん、日帰り応援バスツアーほんとうにお疲れ様でした。

(脇田 千鶴)

年誌資料・広報委員会

皆さん方の絶大なるご支援とご協力により、平成22年度を終えることができました。この一年間、原稿をお寄せいただきました皆さん方に深く感謝申し上げます。委員会としては、少しでも読んでいただける広報誌を目指し、「名岐駅伝いまむかし」「ホープさん」「クラブ紹介」「学校紹介」を掲載してきました。また、今年度の「競技場めぐり」は安城市陸上競技場を取り上げました。11月末には改修工事を終え、多くの方々に利用されています。さらに、少しでも愛知陸協関連事業を知ってもらおうと、「陸協関連事業聞き歩き」として〈エブリパディデカスロン〉を取り上げました。また、昨年9月にホームページがリニューアルされ、この広報誌も創刊号から既刊すべての号がご覧いただけるようになりました。情報発信源として、この『愛知陸協広報誌』がさらに多くの読者の皆さま方に提供できるようになったことは、この上ない喜びであります。

18号から始まったこの一年。内容はいかがでしたでしょうか。これからもよりよい広報誌づくりを考えていきたいと思えます。ご意見ご要望をお待ちしています。

下記は18～21号の概要です。

平成22年度に発行した「愛知陸協広報」18～21号

号数	発行月日 (ページ数)	編集内容
「愛知陸協 広報」 18号	6/29 (p14)	<ul style="list-style-type: none"> 会長及び理事長のこぼ(22年度を迎えて) 4支部の活動状況及び今年度の活動方針 専門委員会報告及び今年度の活動方針 関係団体の活動状況 競技会報告(国体選考強化・普及、国体選考春季選抜、東海学生、県高校総体) 理事会等会議報告 愛知陸協21年度収支決算報告 その他 <ul style="list-style-type: none"> 名岐駅伝いまむかし① ホープさん② 西山 令(岡崎:葵中) クラブ紹介③ 庄内 RT 学校紹介④ 名古屋高
「愛知陸協 広報」 19号	9/30 (p22)	<ul style="list-style-type: none"> 愛知の君たちの頑張りに感動!! 優勝者:糟谷隆明(中京大中京高) ワイナイナビートライスムルギ(豊川高) 2位:河崎梓穂璃(佐屋高) 萩原加奈子(高豊中) 3位:掛川 真(栄中) 理事長のこぼ(上半期を振り返って) 4支部の活動状況 専門委員会報告 関係団体の活動状況 競技会報告(県小学生リレー、東海混成兼愛知混成、県レディース、県選手権、県中通信、県・東海中学総体、東海・全国高校総体・全国高校定通他) 理事会等会議報告 千葉国体選手団一覧表

<p>「愛知陸協広報」 19号</p>	<p>9/30 (p22)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・慶弔報告 (協会会長表彰：稲垣 裕、大津賀賢、飯田日出男、岡田達幸、櫻井一美、蟹江賢治、岩瀬金道、加藤春雄、鈴木 覚、夏目輝久) ・東海陸上競技協会だより ・その他 <ul style="list-style-type: none"> ・名岐駅伝いまむかし⑫ ・ホープさん⑬ 河室 裕貴<名古屋高> ・クラブ紹介⑬ TTRunners とよはし ・学校紹介⑨ 至学館高 ・陸上競技場めぐり②「安城市陸上競技場の歴史」
<p>「愛知陸協広報」 20号</p>	<p>1/1 (p20)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長のことば(新年を迎えて) ・有功章を受章して(副会長國分一郎) ・4支部の活動状況 ・専門委員会報告 ・関係団体の活動状況 ・競技会報告(県小学生、東海高校新人、全国スポレク、駅伝<県中学、県・東海高校、市町村対抗>、日本ジュニア・ユース、名古屋ハーフ) ・千葉国体参戦記 ・千葉国体県選手団競技成績一覧表 ・慶弔報告 有功章：國分一郎 秩父宮章：坂井田醇三 平沼亮三章：渡邊正昭 河野謙三章：石川立恵 春日弘章：伊澤菜々花 河野一郎章：河室裕貴 訃報：森満寿夫 ・その他 <ul style="list-style-type: none"> ・名岐駅伝いまむかし⑬ ・ホープさん⑭ 萩原加奈子<豊橋：高豊中> ・クラブ紹介⑭ とよたAC(トヨタアスリートクラブ) ・学校紹介⑩ 作野小
<p>「愛知陸協広報」 21号</p>	<p>3/25 (p16)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・副会長のことば(協会について思うこととマラソンフェスティバル<仮称>) ・4支部の活動報告 ・専門委員会報告 ・関係団体の活動報告 ・競技会報告(全国高校駅伝、駅伝カーニバル、読売犬山ハーフ、名古屋国際女子マラソン他) ・理事会等会議報告 ・慶弔報告 (県体協表彰 特別優秀選手：室伏由佳、中田有紀 体育功労者：松井祐二、大西敏功、村上叡治、山内正人、大野木伸幸、本間隆勝 優秀選手<国際競技会優秀成績>室伏由佳、中田有紀、市川華菜、鈴木亜由子、伊澤菜々花、近田竜雅 <日本選手権大会等優勝>室伏広治、中田有紀、室伏由佳、ワイナイナ・ムルギ、糟谷隆明、中野真琴、杉山美貴、伊藤南侑、北野有紀)

<p>「愛知陸協広報」 21号</p>	<p>3/25 (p16)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ホープさん⑮ 北島茉莉<瑞陵高> ・クラブ紹介⑮ OWLS ・学校紹介⑪ 祖父江中
-------------------------	-----------------------	--

(外山 修)

関係団体報告

小学生友の会 小学生友の会の活動

1 競技会の成績

12月 愛知県小学生長距離走記録会 ウェーブスタジアム刈谷

1500m × 6人 = 9000m の合計タイム

優勝	JAC あつみ A	30.55.00
2位	蒲郡クラブ A	31.23.83
3位	田原陸上クラブ A	31.33.76
4位	豊橋陸上クラブ A	31.41.37
5位	岡崎 JACA	31.42.94
6位	JAC とよあけ A	32.12.88
7位	なごや陸上クラブ A	32.22.98
8位	へきなん陸上クラブ	32.42.69



優勝した JAC あつみが“日清食品カップ”全国小学生クロスカントリーリレー研修大会(3月19・20日 万博記念公園)へ愛知県代表

としての出場を決めた。

2 22年度の反省

(1) “日清食品カップ”全国小学生陸上競技交流大会男子の部の成績が不振で、入賞が女子4種目に対して、男子は1種目であった。これまでも同じような傾向がみられた。男子を陸上競技に引き付ける、効果のある方法はないものか…。

(2) 愛知県大会(瑞穂陸上競技場)の応援・観覧マナーの向上を願う。

22年度の大会で“撮影禁止”“立ち止まり禁止”“立ち見禁止”“足出し禁止”などの指導・規制看板を掲示した。

前年までに比べて改善が見られたが、23年度にはもっと改善をしたい。

そのために参加チームに次の点の指導をお願いしたい。

※「指導・規制の看板に従いましょう」と予め指導・依頼をしておいていただきたい。

ア 参加者・付き添い・応援の小学生はもちろん

イ コーチ・父母・兄弟姉妹・祖父母・親類縁者などチーム関係者にも

(大矢 新吾・村上 叡治)

中小体連

2011 シーズンに向けて

第18回全国中学校駅伝大会が、12月19日(日)に山

口県セミナーパーククロスカントリーコースで行なわれました。本県から女子は稲沢市立祖父江中学校、男子は豊橋市立石巻中学校が参加しました。女子の部では、1区でエースの堀舞花(3年)選手が11位で2区にたすきを渡し、4区の杉村有紀(3年)選手が区間9位の好走を見せ、最終20位でフィニッシュしました。初出場ながら、たいへん立派なレースを見せてくれました。男子の部では、1区の選手がケガのためベストコンディションでなかったこともあって出遅れましたが、3区の犬塚諒治(3年)選手が区間4位の好走を見せ、最後は36位まで追い上げることができました。石巻中学校の本来の実力をもってすれば、さらに上も狙えたはずですが、最後まで諦めることなく、全力で前の選手を追う姿に胸が熱くなりました。両チームの応援を通じて、あの緊張感のある大舞台で、本来の力を発揮することの難しさを痛感しました。特に中学生は、大会当日に向けていかにベストコンディションにもっていけるかが、勝負のカギではないかと感じた次第です。



短距離の指導をされる豊田裕浩氏(中央大学)

227名の中学生の参加があり、日本陸連のコーチ7名、本県の強化スタッフ、トレーナーを加え、総勢28名体制で指導にあたりました。



参加者・コーチ全員集まったの全体写真

午前中は全参加者が走跳投の基本的な動きを各20分ずつ行ない、その後コントロールテストを実施しました。午後は種目ごとに分かれて練習を行ないました。印象的だったのは、日本陸連のコーチ陣が、「愛知のレベルは高い」と口々におっしゃっていたことです。ジュニアオリンピックでの男女リレーチームの強化についても、陸協の協力のもと、ここまで計画的に強化している県は他にない、と感心してみえました。参加した選手の意欲的な姿勢と、顧問の先生方のご協力もあり、無事陸上教室を終えることができました。私どもの連絡不足のため、午前中に行なわれました小林敬和先生の講演会の題目が、皆様へ通知していた内容と異なっており、双方にご迷惑をお掛けしましたことをこの場を借りてお詫び申し上げます。たいへん申し訳ございませんでした。

JAAF U-15 トップトレーニングキャンプが1月4日(火)～6日(木)に味の素ナショナルトレーニングセンターで行なわれました。本県からは渡邊圭一郎選手(富士中・2年)と、伊藤南侑選手(とよたAC、梅坪台中・2年)の2名が参加しました。将来のオリンピック選手につながる選手を発掘育成するという目的のもと、初めて開催された行事です。各県からのトップ選手が集結したことも

あり、練習、コントロールテストなどでは、間近でハイレベルなパフォーマンスを見ることができました。本県から参加の2名も、た



メディシンボールを投げる渡邊圭一郎選手(富士中・2年)



一番奥が伊藤南侑選手(とよたAC、梅坪台中・2年)

たいへんよい動きを見せ、参加選手の中でも目立つ存在でした。陸連コーチからもお褒めの言葉もいただきました。あの参加選手の中から、奈良全中での優勝者はもちろんのこと、将来のオリンピック、世界選手権の代表候補選手が出てくるかもしれないと思うと、たいへん意義のあるキャンプであったと思います。

さて、22年度の中体連の活動を振り返ってみて、全中、ジュニアオリンピックでの本県と各県の実力について比較してみました。各種目1位8点、8位1点というように計算し、各県対抗で集計してみた結果が以下の通りです。

【2010 鳥取全中】

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
男子	静岡 44	千葉 38	愛知 34.5	神奈川 26	新潟 24	群馬 22	大阪 20	広島 19
女子	兵庫 42	埼玉 35	大阪 23	栃木 20	京都 18	愛知、東京、熊本 17		

【2010 ジュニアオリンピック】

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
男子	静岡 44	埼玉 43	兵庫 37.5	三重 30.5	愛知 30	千葉、大阪 29		福島 26
女子	兵庫 70	大阪 57.5	愛知、静岡 44		埼玉 40	神奈川 29	奈良 28	岐阜 22

みなさんはこの結果をどのように思われるでしょうか。いずれにおいても8位以内に入賞しており、強豪県の一つと言えるでしょう。ただ、現場での実感としては、まだまだ力及ばずと感ずることがあります。例えば、全中、ジュニアオリンピックを通じて、砲丸投での入賞はゼロです。これはここ数年同じ傾向です。スプリント、ハードル種目では、抜群の強さを発揮しますが、投てき種目での停滞は、チーム愛知にとって大きな問題です。投てき種目に関して有能なタレントの発掘と、県全体をあげて強化していくことが重要であると考えます。また、他地区のブロックでは、他県との強化合宿などを行ない、成果を上げているように思います。関西地区の女子ハードルの強さは、まさにその成果の一つと言えます。東海ブロックでは、まだそのような動きはないですが、他県の強豪校の練習や、他県の強化策について実際に見て触れて学ぶことも、今のチーム愛知には必要なことではないかと感じます。私は、愛知はもっと勝てる県だと確信しています。ここ数年、ある一

定の成果をあげてはいますが、こんなものではないと思っています。平成25年に愛知で全中を迎えます。この春に入学してくる新1年生は愛知全中で中心となる学年です。この新1年生をターゲットに、愛知陸協の強化委員会においても、中学生の強化が愛知の強化につながるとの認識のもと、ジュニアの強化に力を入れ、愛知全中に向けて取り組んでいく予定です。この取り組みが、「陸上王国愛知」復権に向けての第一歩になれば、と強く願っております。
(久米 裕朗)

高体連

高体連陸上競技部の活動について



第2中継所で3区の豊川・黒川沙莉愛選手(右)にたすきを渡す2区の鈴木美乃里選手=京都市内で
写真提供 中日新聞社

22年度の沖縄総体では、ここ3年連続で全国高校総体に100名を超える選手が参加し、なかでも男子走高跳で中京大中京の糟谷隆明選手が、女子では3000mで豊川のワイナイナ・ムルギ選手が優勝する等すばらしい活躍が見られました。また、全国高校駅伝では、豊川高校の女子チームが惜しくも3年連続優勝を逃すも、準優勝というすばらしい活躍を見せてくれました。

23年度の全国高校総体は、「北の空君に無限の可能性」のスローガンのもと、岩手県北上市で開催されます。11年前にも同じ場所で全国総体が行なわれましたが、その思い出の場所で新たに多くの愛知県の選手が活躍してくれるものと期待しております。

23年度より総体関係では、6位6名という参加条件が変わり、6位同記録であれば上の大会(県から東海、東海から全国)に進めることとなりました。ただし、走高跳と棒高跳は除きます。また、競歩は東海から全国については4位まで、混成については東海から全国については3位+4位から6位の中でブロック大会の記録を集約して全国で上位5名までとなります。

また、女子の競歩が3000mから5000mに変わります。

23年度の競技会日程がほぼまとまりましたが、そのうち高体連関係だけをピックアップしてお知らせします。(紙面の都合で県大会以上のものだけ掲載させていただきます。)

○高校総体関係

- ・県総体 5月20日(金)～22日(日) 瑞穂
- ・東海総体 6月17日(金)～19日(日) エコパ(静岡県)
- ・全国総体 8月3日(水)～8月7日(日) 北上市(岩手県)

○新人戦関係

- ・県新人 9月24日(土)・25日(日) 瑞穂
- ・東海新人 10月29日(土)・30日(日) 長良川(岐阜県)

○駅伝関係

- ・県駅伝 11月6日(日) 知多市
- ・東海駅伝 11月27日(日) エコパ(静岡県)
- ・全国駅伝 12月25日(日) 京都市 (大島 修)

高体連定通部

「平成22年度を振り返って」

22年度も各校顧問・愛知陸協・関係者のご協力により無事大会を終えることができた。選手の減少が叫ばれて久しい中、県内の大会参加選手数は安定してきている。選手達の力を発表できる場(大会)が多くの人たちに支えられていることに感謝したい。夏には全国大会43年の歴史を振り返る定通関係者の会が開催された。

今年度の全国大会は、予想されてはいたものの、成績がここ30年で最も厳しい結果となった。ケガなどで力のある選手が参加を辞退したことが大きく影響した。今後選手強化はもちろん、傷害等に至らないよう各校に配慮を促したい。

定通陸上部にとって最大の目標は、国立競技場での全国大会である。事業仕分けの影響で補助金が廃止される危惧があるが、定通で学ぶ生徒たちに最高の舞台を用意するために、大会事務局では日夜奔走している。愛知は科技高刈谷(通信制)・市立豊橋(昼間定時制)の2校が中心となっているが、それを脅かす選手を夜間定時制からも育ててもらいたい。

1月30日東京にて、全国代表者会議が開催され、23年度の全国大会開催要項が決定された。愛知も23年度に向け、各校との連携を図り準備を進めているところである。

(松橋 政人)

学連

2010年度東海学連の活動状況

本年は、松本正之会長(NHK会長)体制となって3期目の年となり、東海学連の強化のために学生役員共々一丸となって取り組んでいる。活動状況を以下に紹介したい。

本年9月23日現在、(表)に示す通り、男女の短距離、リレーを中心に東海学生記録の樹立及び更新が延べ18回も続出しており、本連盟学生競技者の目覚ましい活躍とレベルアップがみられている。

本年に樹立、更新された東海学生新記録一覧(日付順)

種目	名前	所属・学年	記録	大会名	場所	日付
女子10kmW	桑原 一葉	朝日・3	46.57	元旦競歩	絵画館	1月1日
女子20kmW	桑原 一葉	朝日・3	1.36.26	日本選手権競歩	甲南大学周辺コース	1月31日
女子100m	今井沙緒里	至学館・2	11.81	春季大会	知多	4月11日
男子400m	中野 弘幸	愛教・4	46.42	静岡国際	エコパ	5月3日
女子100m	今井沙緒里	至学館・2	11.81	静岡国際	エコパ	5月3日
女子1000mW	大和 千秋	中部学・2	47.12.50	東海IC	瑞穂	5月14日
男子110mH	和戸 達哉	中京・2	13.84	東海IC	瑞穂	5月16日
女子200m	市川 華業	中京・2	23.75	日本選手権	丸亀	6月4日
男子110mH	和戸 達哉	中京・2	13.82	日本選手権	丸亀	6月4日
女子200m	市川 華業	中京・2	23.73	個人選手権	平塚	6月19日
男子4×100mR	中川・杉本 服部・田口	中京	39.71	西日本IC	博多の森	7月3日
女子100m	市川 華業	中京・2	11.79	西日本IC	博多の森	7月4日
男子400mH	安部 孝駿	中京・1	49.46	世界ジュニア	カナダ・モントリ	7月23日
女子100m	今井沙緒里	至学館・2	11.64	東海選手権	松本	8月28日
女子200m	今井沙緒里	至学館・2	23.68	東海選手権	松本	8月29日
男子十種競技	中村 明彦	中京・2	7480点	日本IC	国立	9月11日
女子4×100mR	加藤・門奈 仲田・今井	至学館	45.45	日本IC	国立	9月11日

男子 4×400mR	上田・安井 古川・安部	中京	3.06.99	日本 IC	国立	9月12日
---------------	----------------	----	---------	-------	----	-------

各大会結果(東海インカレ、西日本インカレ、日本インカレ)

今年の第76回東海インカレ(5月14～16日、於・瑞穂)において昨年に続き、中京大学がアベック優勝を果たした。男子は中京大学が57年連続57回目の、女子は2年連続48回目の総合優勝を飾った。大会新記録は、延べ7名とリレー4チーム11に上った。最優秀選手には、男子110mハードルで優勝(東海学生新)を樹立した和戸達哉、女子200、400、両リレーの4冠に輝いた市川華菜(いずれも中京)が選ばれた。

第63回西日本インカレ(7月2～4日、於・博多の森)で、男子は中京大学が総合優勝、女子は中京大学が3位となった。中でも男子4×100mリレーでの中京大学の優勝や女子100mの市川(中京)の優勝は大会新記録、東海学生新記録であり、女子5000m競歩の桑原一菜(朝日)も22分41秒17で大会新の優勝が目をつけた。

第79回日本学生陸上競技対校選手権大会(9月10～12日、国立)では、以下の4種目において優勝を果たした。男子3000mSCで山下渉(中京)が8分53秒45、女子4×100mリレーで至学館大が45秒45(東海学生新)、女子円盤投で徳岡沙織(中京)が51m12、女子ハンマー投で加藤晴香(中京)が53m42である。今年の東海学連の入賞は、男子は8種目10人とリレー2チーム、女子は11種目13人とリレー3チームとなり、昨年と比べ男女とも同程度だが、表彰台に立った人数(男子5、女子11)はここ数年で最も多く、本連盟のレベルアップが目立った大会といえる。特に女子短距離では本大会100m、200mいずれも2位と3位になった市川、今井(至学館)の2年生コンビの本年度の躍進はめざましいものがあり、2人で延べ7回の東海学生記録を更新するなど今後の活躍が大いに期待される場所である。

第42回全日本大学駅伝対校選手権については、東海学連の参加枠は2枠であるが、本年度も東海学連選抜チームの出場をお認めいただいている。東海地区の長距離強化における学生の意識レベルの向上や競技水準のレベルアップに寄与しており、関係者の皆様に御礼を申し上げたい。

本年度の選考会は6月27日、瑞穂公園陸上競技場であり、13大学が競った結果、名古屋大が2年連続14度目、中京大が3大会連続31度目の全日本大学選手権出場を決めた。代表校の結果は、名古屋大学16位、また中京大学19位、東海学連選抜チームは2回の選考レースを経て、有田哲治監督のもと、愛知工業大、三重中京大等が主力メンバーとなって編成され16位(オープン)と奮闘した。

第28回全日本大学女子駅伝対校選手権

全日本大学女子駅伝の予選会を8月28日に半田陸上競技場にて5000mによる6名のタイムトライアル形式で行なった。東海学連の参加枠は2枠であり、この枠を5大学が争った。その結果、中京大学が3年連続26回目、名古屋大学は3年ぶり2回目の本大会出場を果たした。名城大(推薦枠)は3位入賞と健闘したが、中京大20位、名大23位で来年度の出場枠は1枠減となった。

各種国際大会

本年度、初めての日本学連からの派遣となった第17回世界大学クロスカントリー選手権大会(カナダ、4月11日)の5kmのレースに名城大学から小田切亜紀、野村沙世の2名が参加した。監督として参加した名城大の米田勝

郎監督は、非常にタフなレースで良い経験となったと話し、長距離におけるクロスカントリーの重要性を再認識したとのことであった。

7月19日～25日にカナダ・モンクトンで開催された世界ジュニア選手権に本連盟から6名が参加し、安部が銀メダル(東海学生新)を獲得するなど、大活躍がみられた。男子400mH 安部孝駿(中京)49.46(2位)、男子走高跳 衛藤昂(鈴鹿高専)2.05、男子4×400mR 安部孝駿(中京)3.07.94(5位)、女子200m 市川華菜(中京)24.09(8位)、女子4×100mR 45.78、女子4×400mR 3.50.65、女子5000m 鈴木亜由子(名古屋)15.47.15(5位)。

8月22日にニューカレドニアで開催されたハーフマラソンに学連代表として派遣された須谷綾香、小田切亜希、津崎紀久代(名城)は、須谷が優勝、小田切が3位の好成績を取めた。こうした各種国際大会に本連盟から一人でも多く参加し、世界を肌で感じるチャンスをものにして欲しいと思う。

強化の活動状況

強化委員会を中心にこれまでに以下のような強化活動や検討が行なわれてきた。

<海外遠征について>

東海学連では、毎年、日本陸連と関東学連等が行なっているヨーロッパ遠征に東海学連からの選手派遣をお願いし、海外経験を積ませている。今年は中野弘幸(400mベスト記録46.42:愛知教育)を7月7日～15日の日程でスイスとチェコに派遣した。また和戸達哉(中京)は、日本陸連のU23の派遣メンバーとして派遣された。

*平成22年度は3月23～28日に台湾遠征を計画している

東海学連として3年に1度は選抜メンバーで海外遠征を行なうこととなり、海外の選手との合同練習会、競技会を行なうことにより、強化へ役立たせる経験を積ませること、海外遠征という新たな刺激を与え、意識レベルの向上を図り、オール東海としての意識の醸成を図ることを主たる目的とするものであり、今回の派遣選手は、秋季選手権(10月23、24日)等の結果を基に選考された。今後も海外遠征の経験を積ませることを東海学連としては大切な機会ととらえ、積極的に支援していきたい。

(安藤 好郎)

実業団

中部連盟から悲願の全日本実業団駅伝でトヨタ自動車が初優勝!!



佐藤監督胴上げ

2011年元旦、第55回全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝)が群馬県で開催された。中部連盟と

して長年の目標であった優勝をトヨタ自動車が見事に達成した。

レースはゴール前400mまで富士通（東日本）、日清食品グループ（東日本）、トヨタ自動車の3チームが、手に汗握るデッドヒートの末、わずかに1秒差でトヨタ自動車のアンカーでキャプテンの熊本剛選手が、富士通をかわし悲願のゴールテープを切った。

中部連盟としては、50年前の1960年に東洋ベアリング（現NTN）チームが準優勝、これが、これまでの最高成績であった。実に半世紀ぶりの中部連盟傘下チームの快挙に大いに沸いた。

今でこそ、ニューイヤー駅伝への中部連盟の出場枠数は7つだが、20年前はわずかに2チームしかなく（注※連盟の出場枠数は一言でいうと全国6連盟の各々成績順位の合計により増減するしくみ）予選会を通過することに、全力投球状態であった。従ってなかなか優勝までは望めない状況が続いた。



3区区間新高林選手

そんな中で、当時の大坪勝則理事（愛知製鋼）および御船芳郎強化委員長（本田技研鈴鹿）を中心になんとかして中部連盟の強化を図ろうと強化合宿を断行し、少しずつその成果が表れて出場枠数の増加が望めるような、チームの状況・雰囲気が出てきたと思います。

そして、現強化委員長の亀鷹律良氏（トヨタ紡織）もその精神を受け継ぎ更なる強化策を展開している。このような地道な努力がようやく実を結んだと言えよう。

どうしても、実業団チームの活動は景気の動向に影響を受けることは否めない。このことは事実であり、だからこそ、現在のこの不透明な経済状況を打破すべく連盟及び加盟チームが更に努力精進することが肝要と考えます。

○第55回全日本実業団対抗駅伝競走大会

(2011年1月1日・群馬県)

優勝	トヨタ自動車	23位	トーエネック
10位	トヨタ紡織	31位	愛三工業
13位	NTN（三重）	34位	八千代工業（三重）
19位	愛知製鋼		

○第30回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会

(2010年12月19日・岐阜県)

9位	デンソー（三重）
22位	ユタカ技研（静岡）
24位	小島プレス

(樋高 勇二)

マスターズ陸上

心豊かな長寿社会への貢献役

平成22年度は新しい大きな事業は行なっていませんので、例年の事業を粛々と行なってきたというのが現状です。しかし、会員も全国的には減少傾向にある中で、愛知

は増加傾向にあります。愛知マスターズ選手権では、過去最高の231人の参加者となり、年4回の記録会は例年どおりと言えますが、運営面では手動計時から電気計時に変更されました。参加規模は第1回～第10回のトータル参加者が493人、平成22年度に開催した4回だけの参加者が697人と大幅な増加となって皆さん楽しんでいただいています。

また、全日本マスターズ駅伝大会では、近年各部門で上位入賞の常連になり、昨年度はエルダーの部で優勝、今年度は男子の部で優勝しました。

このように粛々と事業を推進する中で、着実に内容を充実してきたと考えます。これも直接参画されている会員、役員の方々のご努力のお陰であることは言うまでもありませんが、多くの方々のご協力の賜です。

さて、今年度で愛知マスターズ第12期の現役員の任期が終わります。今期の役員は、第80回記念全日本マスターズ陸上競技選手権愛知大会を大成功に導いたメンバーです。役員それぞれ思いは色々であったと思います。一致団結して大会準備に当たった一連の会議や作業、大会開催中に見た真剣な姿は、人生そのものの中で多かれ少なかれ一つの思い出として何らかの痕跡を残したものと確信します。

思い出に浸りながらも愛知マスターズ陸上を進展させるためには、一刻の停滞も許されません。今後、益々発展させるためには、新たに若い人を役員に積極的に入れて、時代に即した斬新な発想や企画により、会員の皆さんに生きがいと潤いを抱いていただけるよう努力しなくてはなりません。

新年度からは、第13期役員でスタートします。愛知陸協の関係の皆さまのご支援を引き続き賜りますようお願い申し上げます。
(佐野 昭二)

愛知陸協 OB 会

OB会新年懇親会

今年の新年懇親会は名古屋支部の担当で師崎のピラ・マリナー南知多で開催いたしました。

参加者は37名で会場の送迎バス利用者は24名、自家用車使用は13名。送迎バスは14時出発予定でしたが、皆さん時間前に集合していただき、7分前に名古屋駅西口を出発。約1時間で到着し、各々、各部屋でくつろぎ、入浴をすませ18時より懇親会。



皆さん、アルコールも予定を越す勢いでピッチがあがり、予定の時刻がきても話しがやまず、会場の担当者から苦情たらたら、大いに盛り

あがりました。同じ陸上愛好者の集いであるだけに話はずきません。

翌朝、朝食後8時50分1Fロビーで解散式を行ない、皆さん帰路につかれました。来年は東三河支部の担当で御世話いただくことになりました。

今年も元気に陸協のためにも精一杯協力していこうと誓いました。
(村瀬雄一郎)

競技会報告

第72回東海学生駅伝対校選手権大会

2010年12月5日(日) コース: 知多半島一周 7区間

男子成績(太字は愛知登録)

1 中京大	3.21.48	5 皇學館大	3.29.08
(高橋弘幸・山下 洸・三方勇輔・栃木一成・近藤駿一・吉川朋希・神谷泰光)			
2 愛工大 A	3.23.18	6 静岡大	3.31.01
3 名大 A	3.23.28		
4 愛教大	3.28.34		

第4回東海学生女子駅伝対校選手権大会

2010年12月5日(日) コース: 知多半島半周 5区間

女子成績(太字は愛知登録)

1 名城大 A	1.26.16	大会新	
(亀山絵未・谷水見圭・野村沙世・須谷綾香・八木絵里)			
2 中京大	1.32.27	5 至学館大	1.37.32
3 愛教大	1.32.32	6 相女大	1.41.14
4 名大	1.32.48		

2010年駅伝カーニバル 兼 2011 第65回名岐駅伝競走大会予選会

2010年12月12日(日) 庄内緑地公園周回コース

成績(太字は愛知登録)

男子一般

1 三菱自動車岡崎	2.04.43		
(清水翔太・徳山雄太・前澤 信・鈴木孝侑・伊藤 潤・江本悟司)			
2 アスカム R.C	2.05.17	5 TTランナーズ	2.06.58
3 名城大	2.06.41	6 OWLS	2.07.35
4 名大倶楽部	2.06.43		

男子高校

1 岡崎工	1.55.44		
(富田 凌・大竹龍也・松田章吾・富田裕貴・堤 貴博・前田 優)			
2 瑞陵	1.56.27	5 名古屋	1.57.42
3 千種	1.56.46	6 刈谷	1.59.07
4 名東	1.57.29		

中学男子

1 葵	44.39		
(西山 令・関根裕矢・川島大征・稲葉康太・木村健太郎)			
2 岡崎城北	44.49	5 竜海 A	45.36
3 岡崎南 A	45.00	6 岡崎東海 A	45.52
4 美川 A	45.04		

女子一般高校

1 愛知教育大 A	1.06.33		
(成瀬 直・松本杏美・石田はるか・服部綾実・花岡紗耶)			

2 西尾高	1.09.25	5 津島北高	1.12.59
3 名経大高蔵高	1.11.52	6 庄内 RT	1.13.03
4 豊橋南高	1.12.39		

女子中学

1 竜海 A	43.59		
(諸富愛奈・角田真弓・田中愛弓・山口菜穂・柴田有彩)			
2 岡崎東海 A	45.18	5 岡崎南 A	45.58
3 岩津 A	45.41	6 葵	46.06
4 美川 A	45.55		

第63回渥美半島駅伝競走大会

2010年12月19日(日)

男子: 伊良湖岬一豊橋技術科学大学前

女子: 伊良湖岬一赤羽根支所前

一般男子(本県分のみ)

2 中京大学 A	2.13.59		
3 守山自衛隊	2.14.54		
4 トヨタスポーツマンクラブ A	2.15.51		
5 中京大学 C	2.16.18		
6 TPAC-A	2.16.44		
区間賞 3区(7.4km)	長谷川真一(守山自衛隊)	22.40	

高校男子(本県分のみ)

1 愛知 A	2.14.11		
2 豊川 A	2.15.08		
4 岡崎城西 A	2.16.44		
5 愛知 B	2.17.28		
6 愛知 C	2.19.08		

区間賞 2区(9.0km) 神谷信次(愛知 A) 27.14

3区(7.4km) 山本健太(豊川 A) 22.39

4区(8.2km) 東 瑞基(愛知 A) 25.32

5区(8.7km) 橋本一真(豊川 A) 25.56

一般女子(本県分のみ)

1 中京大中京高 A	1.04.45		
3 中京大中京高 B	1.09.01		
4 岡崎城西高 A	1.09.20		
6 田原陸上クラブ	1.09.26		

区間賞 1区(3.0km) 森下琴絵(至学館大 A) 9.44

3区(3.1km) 高橋季香(中京大中京高 A) 10.46

5区(4.6km) 清田真央(中京大中京高 A) 14.23

第18回全国中学校駅伝大会

2010年12月19日(日)

山口県セミナーパーク・クロスカントリーコース

男子の部(18km) 女子の部(12km)

男子成績(本県分のみ)

第36位 石巻 59.06

(伊澤良太・平野蒼之・犬塚諒治・島田涼平・森敬喜・古賀和也)

女子成績(本県分のみ)

第20位 祖父江 42.21

(堀舞花・渡辺智帆・竹嶋央后・杉村有紀・吉川真希)

第61回全国高校駅伝(男子)

2010年12月26日(日)
西京極運動公園陸上競技場 7区間 42.195km

成績(本県分のみ)

第14位 豊川工 2.07.28
(小島秀斗・奥野翔弥・湯田晟旭・小山裕太・竹内洗貴・西尾尚也・城所浩輔)

第22回全国高校駅伝(女子)

2010年12月26日(日)
西京極運動公園陸上競技場 5区間 21.0975km

成績(本県分のみ)

第2位 豊川 1.08.06
(安藤友香・鈴木美乃里・黒川沙莉愛・宮田佳菜代・ワイナイナ・ムルギ)

区間賞 5区(5.0km) ワイナイナ・ムルギ(豊川) 15.40

第42回新春愛知ロードレース・競歩競技会

平成23年1月3日(月) 庄内緑地公園周回コース

成績

一般男子 10km

1 白井 智(TTランナーズ) 33.15
2 澤原 雄一(庄内RT) 33.21
3 松井 良弘(日本福祉大) 33.39

一般男子 20km 競歩

1 川添 康平(金沢大) 1.37.59
2 加藤 稔(庄内RT) 1.38.22
3 前川 大樹(金沢大) 1.44.53

高校男子 10km

1 上野 広夢(熱田) 33.57
2 伊藤 英晃(愛産大三河) 34.23
3 柴田 一槻(愛産大三河) 34.34

高校男子 10km 競歩

1 戸松 弘成(一宮西) 48.15
2 田坂 剛志(三好) 48.18
3 皿井 泰光(半田) 50.06

一般高校女子 10km

1 今井 聡美(名市大) 39.32
2 山中 聖菜(熱田高) 39.50
3 中山 淳子(愛教大名古屋) 40.18

一般高校女子 5km 競歩

1 谷本 佳代(金沢大) 26.26
2 高山 奈々(トヨタ自動車) 27.17
3 尾方美有紀(一宮西高) 27.47

皇后盃第29回全国都道府県対抗女子駅伝

2011年1月16日(日)
西京極運動公園一京都国際会館 42.195km

成績(本県分のみ)

愛知 6位 2.19.48
(鈴木亜由子・伊澤菜々花・山田日菜野・鈴木美乃里・清田真央・黒川沙莉愛・田鍋 舞・松井恵里奈・小倉久美)

天皇盃第16回全国都道府県対抗男子駅伝

平成23年1月23日(日) 広島市平和記念公園前

成績(本県分のみ)

愛知 25位 2.22.04
(小島秀斗・西山 令・山本修平・湯田晟旭・小山裕太・河合祐哉・安田昌倫)

第64回名岐駅伝 2010年2月7日(日)

成績(太字は愛知登録)

男子一般の部

1 愛知製鋼 2.32.05
(大関喜幸・安田昌倫・上條記男・サムエル ドウング・前田貴史・池田麻保呂)
2 愛三工業 2.32.06
3 トヨタ紡績 2.32.26
4 スズキ浜松 AC 2.32.37
5 NTN 2.32.47
6 トヨタ自動車 2.33.03

男子高校の部

1 豊川工 1.59.44
(小山裕太・湯田晟旭・小島秀斗・奥野翔弥・平 和真・近並 郷)
2 遊学館 2.01.06
3 浜松日体 2.01.34
4 愛知 2.01.34
5 美方 2.01.55
6 上野工 2.02.09

2011日本ジュニア室内陸上競技 大阪大会

2011年2月5日(土)~6日(日) 大阪城ホール

◆ジュニア男子 1500m

3位 新橋 基功 岡崎城西高 4.06.03

◆ジュニア男子走高跳

2位 糟谷 隆明 中京大中京高 2.00

◆ジュニア男子棒高跳

5位 近田 竜雅 中京大中京高 4.90

7位 榎 将太 岡崎城西高 4.80

◆中学男子 800m

4位 永山 周輝 知多 TC 2.02.78

◆ジュニア女子 1500m

5位 竹内麻里子 中京大中京高 4.37.95

◆ジュニア女子走高跳

4位 北島 菜葉 瑞陵高 1.65

◆ジュニア女子棒高跳

7位 高木 志帆 中京大中京高 3.30

第46回千葉国際クロスカントリー大会

2011年2月13日(日) 千葉市昭和の森

◆中学男子 3000m

20位 犬塚 諒治 石巻長距離クラブ 9.35

◆ジュニア男子 4000m			
16位	林田 将裕	岡崎城西	12.18
17位	平松 翔太	岡崎城西	12.51
◆ジュニア女子 5000m			
5位	鈴木美乃里	豊川	16.44
◆一般男子 4000m			
7位	濱 克徳	中央発条	11.51
◆一般男子 12000m			
5位	ワジユキ ジャコブ	愛知製鋼	35.24
18位	山本 修平	TTランナーズ	36.38
19位	中尾 勇生	トヨタ紡織	36.38

第94回日本選手権男子・女子競歩大会

2011年2月20日(日) 兵庫・六甲アイランド甲南大学周辺コース

成績(本県分20位まで)

◆女子 20km			
6位	占部 磨美	三菱自動車岡崎	1.35.26
◆ジュニア男子 10km			
1位	木村 洋介	弥富	42.40
6位	小谷 亮太	千種	43.40
12位	田坂 剛志	三好	44.30
◆ジュニア女子 5km			
13位	浜本 桂	千種	24.38
16位	加藤 未紗	愛工大名電	24.50

第25回福岡国際クロスカントリー大会

2011年2月26日(土) 国営海の中道海浜公園クロスカントリーコース

◆シニア男子 10km			
3位	ワジユキ ジャコブ	愛知製鋼	28.53
5位	高林 祐介	トヨタ自動車	29.00
8位	宮脇 千博	トヨタ自動車	29.09
◆ジュニア男子 4km			
19位	柴田 拓人	阿久比	12.49
◆ジュニア男子 8km			
2位	カレミ ズク	豊川	23.31
20位	湯田 晟旭	豊川工	24.20
◆ジュニア男子団体 4km			
9位	阿久比(柴田拓人 長谷川士朗 伊藤 輝)		
◆ジュニア男子団体 8km			
5位	豊川工(湯田晟旭 小山裕太 奥野翔弥)		
◆ジュニア女子 4km			
9位	宮田佳菜代	豊川	13.56
◆ジュニア女子 6km			
15位	鈴木美乃里	豊川	20.08
◆ジュニア女子団体 6km			
4位	豊川(鈴木美乃里 岩出玲亜 黒川沙莉愛)		

第39回世界クロスカントリー大会

3月20日(日) スペイン; プンタ・ウンブリア

千葉国際クロカンと福岡国際クロカンの2つの選考競技会を通じ、日本代表選手23名が決定。シニア男子12キロでは、トヨタ自動車の高林祐介選手が代表として初選抜されました。祈! 健闘。

第33回読売犬山ハーフマラソン

2月27日(日)、名証犬山総合運動場を発着点とする日本陸連公認コース(21.0975kmと10km)で開催され、登録ハーフと登録10km(男子・女子・高校男子・高校女子)の8種目(733名)で健脚を競いました。犬山市・読売新聞社をはじめ、レース運営にご支援いただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。



登録ハーフ先頭集団



登録10km優勝 白柳智也選手

写真提供
読売新聞社

大会成績結果(太字は愛知登録)

登録ハーフ男子

1	李 明承	(三星電子陸上団)	1.03.56
2	高道 淳也	(八千代工業)	1.04.03
3	金 英眞	(三星電子陸上団)	1.04.07
4	船越 大輔	(愛三工業)	1.04.12
5	坂本 智史	(プレス工業)	1.04.17
6	保坂 優介	(八千代工業)	1.04.32

登録ハーフ女子

1	黒田 真央	(ユタカ技研)	1.12.21
2	松永 明子	(ユタカ技研)	1.14.49
3	柴原 杏梨	(ユタカ技研)	1.17.41
4	溝上 優	(ユタカ技研)	1.18.04
5	空山真由美	(小島プレス)	1.18.13
6	岡 美希	(小島プレス)	1.18.38

登録ハーフ大学男子

1	白 承昊	(建国)	1.03.47
2	渡邊 公志	(東洋)	1.03.48
3	高瀬 泰一	(駒澤)	1.03.51
4	神田 純也	(帝京)	1.04.01
5	湯地 俊介	(駒澤)	1.04.30
6	中島 賢士	(早稲田)	1.04.46

登録ハーフ大学女子

1	垣津 奈美	(名古屋大)	1.13.29
2	鈴木 沙季	(岐阜大)	1.21.42
3	山本しおり	(名古屋大)	1.21.52
4	松原ななみ	(椙山女学園大)	1.24.08
5	近藤日佳理	(名古屋大)	1.26.40
6	山口 洋美	(愛知陸協)	1.26.54

登録10km男子

1	白柳 智也	(トヨタ紡績)	29.39 (大会新)
2	西尾 修一	(トヨタスポーツクラブ)	29.41 (大会新)

3	大久保幹也 (NTN)	29.45 (大会新)
4	長坂 公靖 (愛知工業大)	30.19 (大会新)
5	三田 翔平 (城西大)	30.30 (大会新)
6	林 育生 (豊橋技術科学大)	30.33 (大会新)

18位	川畑 憲三	愛三工業	2.13.40
21位	白柳 智也	トヨタ紡織	2.14.15
25位	大塚 良軌	愛知製鋼	2.16.13
27位	野宮 章弘	トヨタ自動車	2.16.54
30位	菅谷 宗弘	トヨタ自動車	2.17.54
41位	高橋 謙介	トヨタ自動車	2.21.47
42位	松岡 直希	庄内RT	2.21.56
50位	岩月 崇	館倶楽部	2.22.44

登録 10km 女子

1	田鍋 舞 (愛知電機)	34.13
2	竹内 愛美 (愛知電機)	34.28
3	小田切綾乃 (愛知電機)	34.39
4	柴田 愛美 (奈良産業大)	34.43
5	山口紗也加 (愛知電機)	35.02
6	河村奈津紀 (小島プレス)	35.03

登録 10km 高校男子

1	神野 大地 (中京大中京)	29.42 (大会新)
2	小島 秀斗 (豊川工)	29.48 (大会新)
3	西尾 尚也 (豊川工)	29.49 (大会新)
4	朱宮 知秀 (愛知)	30.42 (大会新)
5	近並 郷 (豊川工)	30.48 (大会新)
6	吉村 光希 (中京)	30.55 (大会新)

登録 10km 高校女子

1	清田 真央 (中京大中京)	34.19 (大会新)
2	小林 愛実 (豊川工)	34.31 (大会新)
3	田摩 妙如 (中京大中京)	35.42
4	松山 芽生 (益田清風)	35.58
5	近藤 華菜 (中京大中京)	36.08
6	中根 実来 (中京大中京)	36.18

第21回西田修平・高橋公一記念
国際室内棒高跳競技大会

平成23年3月5日(土)～6日(日) 中京大学豊田学舎大体育館

成績

国際男子

1	澤野 大地 (千葉・日本)	5.53
2	鈴木 崇文 (静岡・日本)	5.23
3	山本 聖途 (愛知・中京大)	5.13

国際女子

1	我孫子智美 (滋賀・日本)	4.22
2	サリー・スコット (イギリス)	4.02
3	仲田 愛 (広島・鹿屋体育大)	3.82

男子選抜

1	鈴木 惇也 (静岡・日本体育大)	5.00
2	佐古田孝一 (石川・日本体育大)	5.00
3	坂口 敦規 (静岡・日本体育大)	4.90

女子選抜

1	斎藤希望花 (滋賀・高島高)	3.60
2	渡邊みなみ (岐阜・愛知教育大)	3.40
3	生井 ちま (栃木・日本体育大)	3.40

第66回びわ湖毎日マラソン大会

2011年3月6日(日) 12:30 スタート
日本陸連公認びわ湖毎日マラソンコース

成績 (本県分 50位まで)

9位	糟谷 悟	トヨタ紡織	2.11.17
----	------	-------	---------

理事会等会議報告

○常務理事会 23年1月13日(木) 18時30分 教育会館

1 協議事項

①日本陸連栄章候補者について

下記の各栄章候補者が決まりました。

- ・秩父宮章 小椋 征弘 (尾張支部長)
- ・高校優秀指導者章 稲垣 克憲 (至学館高教)
- ・中学優秀指導者章 兵藤 重二 (豊橋・南部中教)
- ・高校優秀選手章 糟谷 隆明 (中京大中京)
- ・中学優秀選手章 萩原加奈子 (高豊中・豊橋陸上クラブ)

②公認審判員の昇格候補者について

・現在集計し、審査中との報告ありました。

③平成23年度の競技会等の日程について (追加・変更)

④その他

2 報告事項

①各専門委員会からの報告

②その他

○理事会 23年2月8日(火) 18時30分 教育会館

1 協議事項

①任期満了に伴う役員を選任について

・23・24年度役員についての提案に基づき、協議しました。

②平成23年度の競技会等の日程について (追加・変更)

・本陸協ホームページを参照してください。

③審判昇格候補者について

・審査の結果 S級3名 (早川 鈴一・名倉喜三郎・園部 安喜) A級11名 B級35名

④役員選任に関する規則の一部改正について

・第2条 (役員選任)

(現行) 役員のうち、顧問、参与、評議員、専門委員には、定年制限を適用しない。

(改正) 役員のうち、名誉会長、名誉副会長、顧問、参与、評議員、専門委員には、定年制限を適用しない。

2 報告事項

①登録について

・システム化 (web化) への移行について提案がありました。

(経緯) 登録に関する手続きについて、現状の登録用紙を中心とした方法を続けていくのは、情報有効活用、会員の把握、管理コストという点から限界にきている。(日本陸連より)

②各専門委員会からの報告

③その他

○臨時評議員会 23年2月14日(月)18時 教育会館
1 任期満了に伴う平成23年度・24年度役員を選任について

①愛知陸上競技協会役員

- ・役員案が提案されましたが、名誉副会長に國分氏、副会長に村瀬氏の選任要望が評議員から出され、二人を追加、承認されました。

会 長 梅村 清弘
名誉副会長 國分 一郎
副 会 長 村瀬雄一郎
支部長・副会長 小椋 征弘・坂井田醇三・柴田 和秀・夏目 輝久
理 事 青木 実・榊原 茂・小森好治・水野隆夫・植田准次・桑原義貴・櫻井一美・野村弥寿男・加藤高行・兵藤重二・仲井雅弘・外山幸男・稲垣 裕・岡田武彦・北村 肇・脇田千鶴・安田純久・清水康郎・安藤好郎・伊藤明久・石田美知枝・樋高勇二・本田 陽・大島 修・久米裕朗・佐野昭二
監 事 萬谷 康幸・若松 良一・中尾 洋一・鈴木 政男

②東海陸上競技協会愛知陸協選出理事

- ・下記5名が理事として選出されました。
外山 幸男・稲垣 裕・青木 実・榊原 茂・北村 肇

2 その他

○理事会 23年2月21日(月)18時30分 教育会館

- 1 平成23年度・24年度愛知陸上競技協会役員を選任について
- 2 その他

(稲垣 裕)

栄 章

おめでとうございます

○平成22年度(財)愛知県体育協会表彰式が平成23年3月16日(水)「ウイルあいち」(愛知県女性総合センター)で行なわれました。受賞された皆様には、心からお祝い申し上げます。

1 特別優秀選手、監督

- (国民体育大会・日本選手権等3回連続優勝)
室伏 由佳(ミズノ㈱)
日本選手権円盤投・ハンマー投連続優勝(92・93・94回)
中田 有紀(日本保育サービス)
日本選手権混成競技(七種)連続優勝(92・93・94回)

2 体育功労者

- (スポーツ振興)
松井 祐二 大西 敏功 村上 叡治
山内 正人 大野木伸幸 本間 隆勝

3 優秀選手、監督

- (国際競技会優秀成績)
室伏 由佳(ミズノ㈱)
第16回アジア競技大会ハンマー投3位・円盤投6位
中田 有紀(日本保育サービス)

- 第16回アジア競技大会七種競技2位
市川 華菜(中京大)
第13回世界ジュニア選手権大会200m8位
鈴木亜由子(名古屋大)
第13回世界ジュニア選手権大会5000m5位
伊澤菜々花(順天堂大)
第13回世界ジュニア選手権大会5000m8位
近田 竜雅(中京大中京高)
第14回アジアジュニア選手権大会棒高跳4位(日本選手権大会等優勝)
室伏 広治(ミズノ㈱)
第94回日本選手権大会ハンマー投優勝
中田 有紀(日本保育サービス)
第94回日本選手権大会混成競技(七種)優勝
室伏 由佳(ミズノ㈱)
第94回日本選手権大会円盤投・ハンマー投優勝
ワイナイナ・ムルギ(豊川高)
第63回全国高等学校総合体育大会3000m優勝
糟谷 隆明(中京大中京高)
第63回全国高等学校総合体育大会走高跳優勝
中野 真琴(豊橋・東部中)
第41回ジュニアオリンピック大会Cクラス100m・4×100mR 優勝
杉山 美貴(矢作北中)
第41回ジュニアオリンピック大会4×100mR 優勝
伊藤 南佑(梅坪台中)
第41回ジュニアオリンピック大会4×100mR 優勝
北野 有紀(愛知淑徳中)
第41回ジュニアオリンピック大会4×100mR 優勝
(稲垣 裕)

お く や み
長年本県の陸上競技発展のため多大なるご尽力をいただきまして、ありがとうございました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)
逝去者氏名 逝去年月 支部名
山田 照夫 23・1 東三河

編 集 後 記

◆東日本大震災により国際女子マラソンの中止は、選手にとって大変無念だったと思う。それにもまして被災者の方々のご苦労ご心中を察する時、何と云ってよいかそのことばも見当たらない。◆ホームページがリニューアルされ、陸上関係者及び愛好者から大変喜ばれていると聞き、うれしい気持ちでいっぱいである。◆23年度がもう目前。トラックシーズンの幕開けである。勢いよくスタートを切りたい。◆この1年間、たくさんの方々のご支援ご協力に多謝。

編 集 委 員

- 占部 輝之 大久保真理子 大西 敏功 外山 修
中尾 洋一 新美 準人 西垣 完彦 野口 一昭
山本 三郎